



Title	康家語基礎語彙(1)
Author(s)	春田, 勇輝; HARUTA, Yuki
Citation	北方言語研究, 14, 271-285
Issue Date	2024-03-20
DOI	https://doi.org/10.14943/110539
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/92081
Type	departmental bulletin paper
File Information	15_Haruta.pdf



[資料・研究ノート]

康家語基礎語彙 (1)

春田 勇輝

(東京外国語大学大学院博士後期課程)

キーワード：康家語、モンゴル諸語、基礎語彙

1. はじめに

本稿では、中国青海省黄南藏族自治州尖扎県康楊鎮の一部の回族によって話されるモンゴル系言語、康家語 (Kangjia) の基礎語彙 191 語を掲げる。モンゴル諸語内の比較のために先行研究において康家語と系統が近いと指摘される保安語、東郷語の語形も併記する。

基礎語彙データは 2022 年 1 月から 8 月にかけて筆者がオンラインにて実施した複数の康家語話者に対する語彙調査に基づく。

2. 康家語の概要

康家語 (カンジャ語) は、中国青海省黄南藏族自治州尖扎県康楊鎮で回族によって話されるモンゴル系の言語である。以下、康家語の使用地域、言語使用状況、系統について述べる。

2.1 使用地域

康家語が話される康楊鎮は、青海省黄南藏族自治州尖扎県の北東部に位置する (図 1)。康楊鎮に居住する主な民族は回族である。回族は鎮の全人口約 7,000 人の約 85% を占め、チベット族は約 1 割程度である (中華人民共和国民政部編 2016: 531-532)。回族、チベット族以外に、少数の漢族、土族も居住する。



図 1 尖扎県の位置 (白地図専門店¹をもとに、地名および丸印等を筆者が追記)

¹ <https://www.freemap.jp/>

康楊鎮は、康家と楊家の2つの地域に分かれる。特に鎮政府所在地周辺は康家と呼ばれ、康家語は康家の沙力木、宗子拉、巷道の3つの地域に暮らす回族によって主に使用される(図2)。

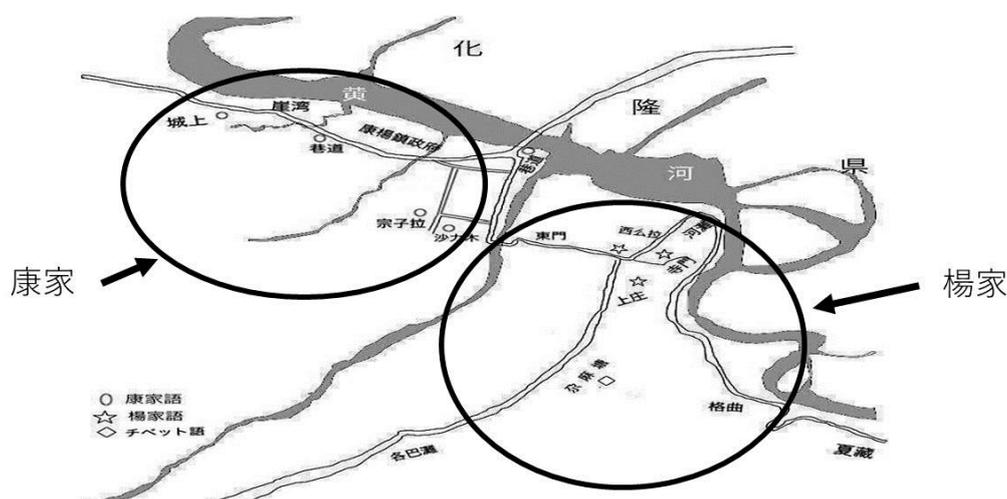


図2 康楊鎮の地図 (周楊措 2019 : 24 をもとに地名および印を筆者が追記)

2.2 言語使用状況

康家語の言語使用状況について、先行研究と筆者自身の調査に基づいて述べる。斯欽朝克図 (1999) では、康家語話者数は487人と報告される。そのうち、流暢に話せる話者は、377人である。康家語話者の殆どが、漢語青海方言を母語とする。一部の老人はアムド・チベット語も話す。李曉慧 (2019) は、康楊鎮の住民300人に対して言語使用状況調査を行っている。その調査の結果、康家語を解するのは、300人中25人であり、流暢に話せるのは5人であった。康楊鎮の人口は約7,000人であるから、単純計算すると康家語を流暢に話せるのは、2019年時点では100人前後だと推測される。

筆者も調査において、言語使用状況について聞く機会があった。康楊鎮において最も規模の大きい地区であり、100戸以上を有する沙力木では、康家語を理解するのは沙力木の人口の半数にも満たないのではないかとの話者の回答が得られた。言語使用状況については本格的な調査を行っていないため正確な話者数は分からない。しかし、50代以下の世代への言語継承がほとんど行われていない現状だということ、さらに康家語を流暢に話す話者でさえ、康家語を話す機会は限定的だという回答から、2023年現在、康家語の話者数は斯欽朝克図 (1999) が調査した当時の478人よりも少ない可能性が高い。

2.3 系統

康家語はモンゴル語族に属する言語である (李克郁 1993)。康家語は保安語 (Bonan)、東郷語 (Santa, Dongxiang)、土族語 (Monguor)、東部裕固語 (Shira Yugur)、ダグール語 (Dagur)、

モゴール語 (Moghol) とともに、モンゴル語族の中でも孤立的諸言語と位置付けられる。孤立的諸言語は、モンゴル諸語の中でもモンゴル語やオイラト語、ブリヤート語などのモンゴル高原で広く話される言語と大きな乖離があり、独自の言語特徴を有し、地理的にも隔絶された地域に位置することから、「孤立的」と呼ばれる。

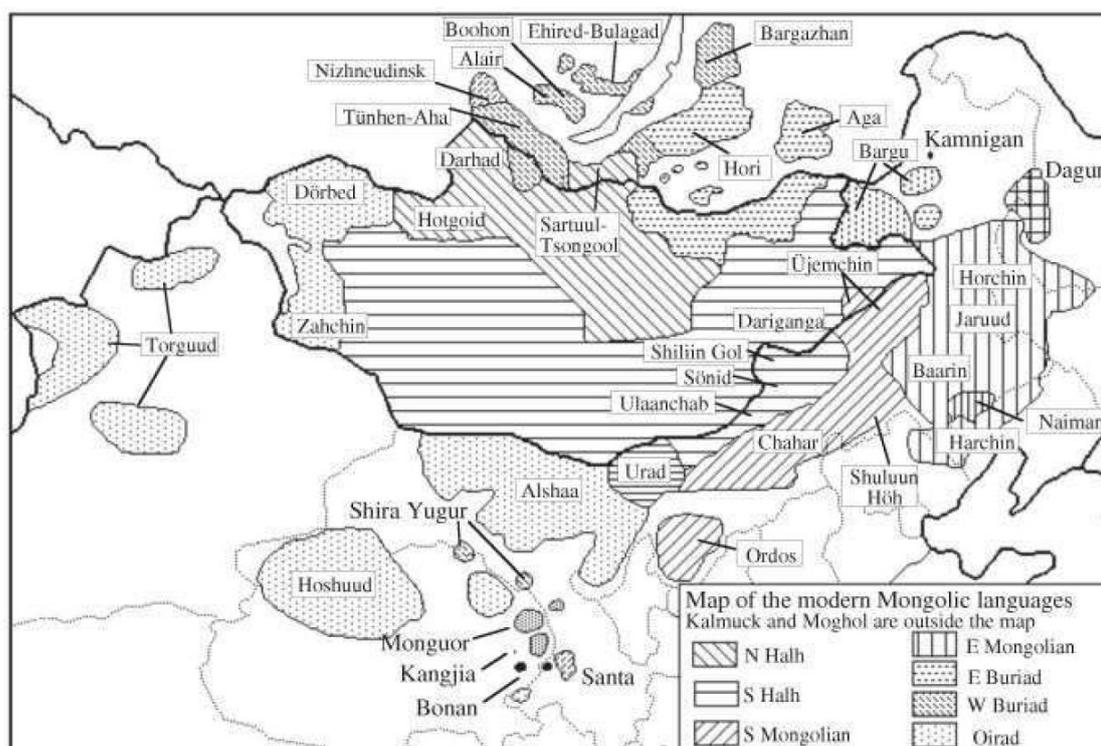


図3 モンゴル諸語の分布 (Svantesson et al. 2005: 141)

さらにこれら孤立的諸言語のうち、康家語、保安語、東郷語、土族語、東部裕固語は、言語特徴の類似や地理的環境からシロンゴル・モンゴル諸語 (Shirongol Mongolic) と呼ばれることがある (Nugteren 2011: 20)。

シロンゴル・モンゴル諸語 (またはシロンゴル・モンゴル語) は、中国甘粛省蘭州以西の黄河上流域に居住するモンゴル系住民の言語を指す (栗林 1989c)。この地域に分布するモンゴル諸語は他のモンゴル諸語が失った古い特徴を一部保持しつつも、周辺の漢語、チベット語の影響により、文法および語彙に大きな変化が起こったという独自の特徴を共有する (栗林 1989b) ²。

康家語の系統に関しては、シロンゴル・モンゴル諸語の内、保安語と最も系統的に近いとする見解 (陳乃雄 1994) や東郷語に近いとする見解 (李克郁 1993) が従来提示されてきた。一方で、音韻体系の類似から東部裕固語に近いとする主張 (Ko 2012) もある。しかし、モンゴル語族全体の系統や分岐の過程が十分に明らかになっていないこともあり、康家語を

² 康家語の研究が公刊されたのは、1990年以降であるため、栗林 (1989b, 1989c) には康家語に関する言及はない。しかし、文法的特徴や地理的環境からシロンゴル・モンゴル諸語の一つと見なして問題はないだろう。

含めたシロンゴル・モンゴル諸語の成立過程は未だ明らかでない。

3. 先行研究

康家語の先行研究について述べる。斯欽朝克図（1999）は、康家語の唯一の総合的な記述文法書である。斯欽朝克図（1999）では、主に沙力木地域の康家語の音声・音韻、形態論、統語論などが記述され、語彙集と康家語による康家地域の回族の婚礼儀式に関する解説が附録として載せられている。他にも、康家語の音韻と簡単な語彙を初めて記述した韓建業（1992, 1994）や康家語の音韻的特徴から康家語の系統について考察した李克郁（1993）などの研究もごく一部存在するが、いずれも断片的な内容に留まる。

4. 調査概要

ここでは、筆者が行った康家語話者に対するフィールド調査の概要を述べる。

調査は、2022年1月～8月にかけて、1回あたり約2時間、計6回実施した。調査はオンラインにて実施した。調査にあたり、まず斯欽朝克図（1999）や山越（2017-2022）を参考に、モンゴル諸語における同源語を中心とした語彙調査票を作成し、この語彙調査票を用いて基礎語彙を収集した。調査媒介言語は漢語を基本とし、必要に応じて協力者³の手助けのもとアムド・チベット語も使用した。

調査協力者に関する情報は表1の通りである。

表1 調査協力者の情報

イニシャル	居住地・出身	年齢	性別	言語使用状況
ME	沙力木	70代後半	男性	家庭内のみ
ER	沙力木	50代後半	男性	親との会話
EM	沙力木	70代後半	女性	幼少期のみ
JI	宗子拉	70代前半	男性	友人との集まり
WE	宗子拉	80代後半	女性	友人との集まり

調査協力者はすべて回族である。いずれも母語は漢語青海方言であり、アムド・チベット語を部分的に解する話者もいた。調査を行った話者の居住地は、沙力木と宗子拉の2つに分けられるが、2つの地域で話される康家語に大きな差異は観察されなかった。

5. 音韻

ここでは、調査データをもとに暫定的に筆者が想定する康家語の音韻体系を提示する。康家語の音節構造は、語頭音節と非語頭音節の2つの部分からなる。語頭音節の構造を(1)に示す。Cは子音、Vは母音、Gはわたり音を表す。

³ 日本への留学経験があり、アムド・チベット語を母語とし漢語、日本語も解する。

(1) 語頭音節の構造

(C₂) C₁ (G) V (G) (C_{coda})

C₂, C₁ が連続する場合、C₂ には /ŋ/, /ʃ/ のみが立つ⁴ (e.g. /ŋde.ki/ 「卵」, /ʃtuŋ/ 「齒」)。C_{coda} には /ŋ/, /g/, /l/, /r/, /s/, /n/ が入りうる。V にはすべての母音が入る。G には /w/, /j/ のみが入る。非語頭音節の構造は (2) の通りである。

(2) 非語頭音節の構造

C (G) V (G) (C_{coda}) or G V (G) (C_{coda})

語頭音節と異なり、頭子音の C もしくは G は義務的である (e.g. /de.wu/ 「妹」)。V にはすべての母音が入る。G には /w/, /j/ のみが立つ。C_{coda} には、/ŋ/, /r/ のみが立つ。康家語の子音音素は表 2 の通りである。

表 2 子音

	Bilable	Alveolar	Postalveolar	Palatal	Velar~Uvular
Obstruent	p [p ^h]	t [t ^h]	ʧ [ʧ ^h]		k [k ^h ~ q ^h]
	b [p]	d [t]	ʤ [ʧ]		g [k ~ q]
Affricative		ts [ts ^h]			
		dz [ts]			
Fricative	f [ɸ]	s [s]	ʃ [ʃ]		x [x ~ χ] ɣ [ɣ ~ ʁ]
Nasal	m [m]	n [n]			ŋ [ŋ]
Liquid		l [l]			
		r [r~ɹ]			
Glide	w [w]			j [j]	

/ts/, /dz/ および /ŋ/ を除く全ての子音は語頭音節中の C₁ に現れうる。子音は有気、無気で対立する。/ts/, /dz/ は主に漢語やチベット語からの借用語に現れる。

康家語の母音音素は /i/, /e/, /a/, /o/, /u/ の 5 つ⁵ である (表 3)。

⁴ 斯欽朝克図 (1999) は、C₂ に入る子音として ŋ, ʃ の他に n, m, s もあげているが、筆者の調査ではこれらの子音が C₂ に現れる語は観察されなかった。

⁵ 斯欽朝克図 (1999) は、a, ə, u, e, i, ɔ, u, ɵ, u, y, ɤ の 11 母音を音素として設定している。しかし、筆者の調査データに基づく限り 11 母音を設定する蓋然性はなく、5 母音で康家語の音韻体系は記述可能だとみならず。康家語の母音体系についてより詳しくは春田 (2023) を参照。

表3 母音

	-back	+back
+high, -low	i [i]	u [u~ʊ~w]
-high, -low	e [e~ɛ~ei]	o [o~ɔ~ɤ]
-high, +low		a [a]

これらの母音が長短で区別されることはないが、語末では長母音化する (e.g. /go/ [go:] 「虹」)。

/i/はほとんどの場合[i]で現れる。/e/は語末で二重母音化することがある (e.g. /be/ [pei] 「身体」)。/u/, /o/は語頭音節に現れる場合は円唇性が弱く、/u/ [ʊ~w], /o/ [ɔ~ɤ]と発音される。ただし、語末に現れる/u/, /o/は円唇性が明確に現れる (e.g. /amo/ [amo:] 「口」)。

6. 基礎語彙

本稿で提示する康家語の基礎語彙は、同源とみなすことができるモンゴル文語のラテン文字表記を、栗林 (1989a) を参考に昇順にデータを並べたものである。

- 筆者が収集した康家語データに加え、斯欽朝克図 (1999) に掲載される康家語の形式とモンゴル文語のラテン文字転写の語形を記す。なお、モンゴル文語形は必ずしも康家語と同源であることを意味せず、同源でないが類似の意味を持つ形式も含む。
- 康家語とともに、先行研究で系統の近さが指摘される保安語、東郷語で類似した意味を持つ語も挙げる。なお、語彙表中の「---」は該当する語の記載が出典に無いことを表す。
- 意味は筆者が収集した康家語の語彙に対する意味を表す。
- モンゴル文語、保安語、東郷語の出典は以下の通りである。
 1. モンゴル文語：栗林 (1989a)
 2. 保安語：布和・劉照雄編 (1982)、陳乃雄等編 (1985)、孫竹主編 (1990) ⁶
 3. 東郷語：劉照雄編 (1981)、布和等編 (1983) ⁷
- 動詞に関しては、実際に発話された形式を示すとともに、その語形の説明も示す。なお、「-」は動詞語幹と活用語尾の境界を表す。

No.	文語形	意味	康家語	斯欽朝克図 (1999)	保安語	東郷語
1	<i>aduɣusu(n)</i>	家畜	asuj	asun	asuj	asun
2	<i>alima</i>	果物	alima	pinguə	almaŋ	alima
3	<i>alqum</i>	一步、歩み	xalo	halɣu	ɣalɣuŋ	hanku

⁶ 主に布和・劉照雄編著 (1982) から語彙を選択し、そこにはない場合陳乃雄等編 (1985) および孫竹主編 (1990) から補っている。なお、陳乃雄等編 (1985) で *ə*, *ɑ* と表記される語は便宜上 *o*, *a* と表す。

⁷ 主に劉照雄編著 (1981) から語彙を選択し、そこにはない場合布和等編 (1983) から補っている。なお、布和等編 (1983) で *ɑ* と表記される語は劉照雄編著 (1981) の表記に合わせ *a* と表す。

No.	文語形	意味	康家語	斯欽朝克因 (1999)	保安語	東郷語
4	<i>alta(n)</i>	金	anto	antə	altaŋ	antan
5	<i>ama(n)</i>	口	amo	amə	aman	aman
6	<i>amidu</i>	生きている	amintu	amintu	amtə	amitu
7	<i>amta(n)</i>	うまい	antatu	antatu	amtəg	dzuwəi
8	<i>arasu(n)</i>	皮膚	arasuŋ	arasun	arsuŋ	arasun
9	<i>ariki</i>	酒	durasuŋ	dərasun~drasun	raku	darasun
10	<i>ayula</i>	山	ula	ula	hi	ula
11	<i>ayur</i>	湯気	xor	hər	χor	xo
12	<i>ayuu</i>	広い	u	u~u:	u	ayui
13	<i>bagu-</i>	降りる	bo (命令形)	bu-	bu-	bao-
14	<i>bara-</i>	おわる	bura (命令形)	bəra~bura-	uärə-	bara-
15	<i>basa</i>	又	busa	bəsa~bəsxə	da	pusə
16	<i>bayan</i>	豊かだ	bajotu	bajo	bajaŋ	bajan
17	<i>bayə</i>	小さい	ʃko	ʃco	dzigəŋ	məila
18	<i>bayasu(n)</i>	大便、糞	basuŋ	basun~ba:sun	basuŋ	basun
19	<i>beye</i>	体、肉体	be	be~bei	huŋ	bəijə
20	<i>bi</i>	私	bi	bi	bü (~bə)	bi
21	<i>bide</i>	私たち (排他形)	bude	bəde	bədə	bidziən
22	<i>bitegüü(n)</i>	狭い	wito	uito	---	pədzia
23	<i>bögesü(n)</i>	虱	busuŋ	bəsun~bə:sun	bosuŋ	bosun
24	<i>bögse</i>	尻	besge	besge	bogor	boyo
25	<i>bos-</i>	起きる	bos (命令形)	bəsu-	osi-	bosu-
26	<i>boyuni</i>	短い	boxuni	bəxəni~bəxəni~ baxəni	boɣoluŋ	boɣoni
27	<i>büse</i>	布	bosu~busu	bəsu	se	pieia
28	<i>bütün</i>	全部	puto	pütən~pütə	putuŋ	pudu
29	<i>času(n)</i>	雪	ʃfasuŋ	ʃfasun	teiasuŋ	tʃasun
30	<i>čayan</i>	白い	ʃixə	ʃixə~ʃəxə	teigaŋ	tʃuwan
31	<i>či</i>	あなた	ʃi	ʃi	teĩ	tʃu
32	<i>čiki(n)</i>	耳	ʃixə	ʃixə~ʃəxə	teixəŋ	tʃuɣun
33	<i>čilaɣu(n)</i>	石	tafi	ʃilə	taei	taʃi

No.	文語形	意味	康家語	斯欽朝克因 (1999)	保安語	東郷語
34	<i>čilüge</i>	暇	ʃfulu	ʃfələ~ʃfələ:~ʃfīlə	eiən	eiən
35	<i>čimüge(n)</i>	髓	guŋ	---	---	---
36	<i>čisu(n)</i>	血	ʃʃisuŋ	ʃʃisun	teisuŋ	tʃusun
37	<i>dabusu(n)</i>	塩	ifi	ifi	dabsuŋ	dansun
38	<i>dalai</i>	海	gu muro	χai~χei	χai	xai
39	<i>dalu</i>	肩	daleŋ	dalian~dalen	dalaŋ	daləu
40	<i>dayu(n)</i>	音、声	doŋ	duŋ	duŋ	don
41	<i>dayula-</i>	歌う	dula (命令形)	daula-	dolə-	dəula-
42	<i>degere</i>	上	dere	dere	dziərə	dziərə
43	<i>degüü</i>	妹	dewu	devu	dəu	dziəo
44	<i>doliya-</i>	舐める	doruwa (現在・未来形)	dər-	dolə-	dolu-
45	<i>dörbelji(n)</i>	四角い	derotu	derətu	derəŋbəltə	---
46	<i>dotura</i>	内、内部	dofina	tʃʃi~tʃʃi	dorə	tudoro
47	<i>doura</i>	下	doŋʃi	duru	eira	dəura
48	<i>ebčigüü(n)</i>	胸	ifixo	vəiʃə	ebteyŋ	ətʃən
49	<i>ebed-</i>	痛い (痛む)	wis-na (現在・未来形)	vəide-	etə-	otu-
50	<i>eber</i>	角	raʃʃu	zaʃʃu	uer	gotʃa
51	<i>ebesü(n)</i>	草	wisuŋ	veisun	uesuŋ	osun
52	<i>ečengkei</i>	瘦せた	narxo	səubələ~subələ	maχeia	tuyən
53	<i>eči-</i>	行く	dzi (命令形)	dzi-	dzi-	ətʃu-
54	<i>ediüge; odu</i>	今	noti	da	daŋsəŋ	ədə
55	<i>edür</i>	日	udur	udər	udər	udu
56	<i>egeči</i>	姉	adzi	adzuu	adzi	adzi
57	<i>egüde</i>	扉、ドア	ido	ido	ndaŋ	uidziən
58	<i>egüde</i>	門	ido	ido	ndaŋ	uidziən
59	<i>egüle</i>	雲	uliw	ulio	mokə	oliən
60	<i>egür</i>	巢	hor	hər	hor	xo
61	<i>emüs-</i>	着る	mus (命令形)	məsui	musi-	misu-
62	<i>ende</i>	ここに、ここで	ŋde	entu~antu~untu	nəχaŋ	əndə

No.	文語形	意味	康家語	斯欽朝克因 (1999)	保安語	東郷語
63	<i>gedesü</i>	腹	gedjisun	gədzisun	---	---
64	<i>gege(n)</i>	明るい	gigo	gigo	---	---
65	<i>gejige</i>	辮髪、おさげ	rawa	---	rawu	---
66	<i>ger</i>	家、住居	gar	ger~gar	gər	giə
67	<i>gölüge(n)</i>	子犬	xabatsu	nukuai	nogoi d̥ind̥ziyə	noyəi dzundzuya
68	<i>gün</i>	深い	gun	gun	gudaŋ	gun
69	<i>güyü-</i>	走る	guj (命令形)	gui-	χolə-	xolu-
70	<i>ide-</i>	食べる	ide (命令形)	ide-	nda-	idziə-
71	<i>imaɣa(n)</i>	山羊	imo	imə	imaŋ	iman
72	<i>iniyedüm</i>	笑い話	ɟinedzu	ɟinidəŋ	eineduŋ	einiədun
73	<i>ɟabaji</i>	口	amo	amə	amaŋ goidzi	aman godzu
74	<i>ɟalaɣu</i>	若い	saru	dʒalu	---	dʒalau
75	<i>ɟaɣu-</i>	噛む、咬みつく	dʒu (命令形)	dʒedzi~dʒiə-	dʒu-	dʒau-
76	<i>ɟegüü(n)</i>	針	dʒeŋ	dʒən~dʒyn	dʒyŋ	dʒun
77	<i>ɟirike</i>	心臓	dʒirke	dʒirge~dʒirgi	dʒirgə	dʒuyə
78	<i>ɟiyasu(n)</i>	魚	dʒikasun	dʒikasun~dʒakasun	dʒilɣasun	dʒaɣasun
79	<i>ɟočin</i>	来客	dʒuɟur	dʒuɟə~dʒyɟə	dʒiaoteyŋ	dʒotʂun
80	<i>ɟuɟayan</i>	厚い	dʒidʒo	dʒidʒə	dʒidʒiaŋ	dʒudʒan
81	<i>kebte-</i>	寝る、横たわる	keti (命令形)	kete~kite-	---	kidziə-
82	<i>kedü(n)</i>	いくつ	gudo	gudə~gədə	kudəŋ~kutəŋ	giədun
83	<i>kei</i>	風	ki	ke~ki	ki	kəi
84	<i>kele(n)</i>	舌	keliw	kilio	kalaŋ	kiəliən
85	<i>ken</i>	誰	kaŋ	kə	kaŋ	kiən
86	<i>ketiken; ökin</i>	娘	ego	kəgə	aɣu	otəin
87	<i>kimusu(n)</i>	爪 [人、動物の]	gimisun	gemesun~gimesun	gomusun	cuumusun
88	<i>kituɣa</i>	小刀、ナイフ	duxu	duxu	dogə, dogo	qudoyə
89	<i>ködel-</i>	動く	gudela (命令形)	gudəle-	gudəl-	godziəlu-

No.	文語形	意味	康家語	斯欽朝克因 (1999)	保安語	東郷語
90	<i>köl</i>	足	kor	kuar~ker	kual	kon
91	<i>kölüsü(n)</i>	汗	kulisuŋ	kulesu	kolsuŋ, komsuŋ	koliasun
92	<i>kömüŋge</i>	眉、眉毛	samasuŋ	samasun	məimao, χamsəχ	mimao
93	<i>köŋgen</i>	軽い	güŋgo	güŋgɔ	kuŋkaŋ	gongjien
94	<i>küjügüü(n)</i>	首	gudzuŋ	gudzɯn	gudzyŋ	gudzun
95	<i>kümün</i>	人	kuŋ	kɯn	kuŋ	kun
96	<i>kündü</i>	重い	güŋdu	gündu	kuntə	gundu
97	<i>küü</i>	息子	kugo	kügɔ	awu, au	kəwon
98	<i>longqu</i>	瓶	pori	pɔri	piŋdʒi	pindzu
99	<i>malayai</i>	帽子	malɕa	malɕa	malga	mayala
100	<i>maryasi</i>	明日	makafi	makafi	maχeiə	mayasɯ
101	<i>mayu</i>	悪い、間違 った	mor	mau~mu	muŋ	mao
102	<i>miqa(n)</i>	肉	muka	maɕa	məca	miya
103	<i>modu(n)</i>	樹木	dʒasuŋ	murtɯn	ɕiu	mutun
104	<i>möŋgü(n)</i>	金、金銭	mjengu	meŋgu	miəŋgu	miəŋgu
105	<i>mör</i>	道	mor	mɔr	mor	mo
106	<i>mören</i>	大河	muro	mɯrɔ	dʒiaŋ	dʒian
107	<i>mori(n)</i>	馬	mori	mɔri	morə	mori
108	<i>mösü(n)</i>	氷	musuŋ	mɔrsɯn ~ mɔsun	mieiu	mənsun
109	<i>moyui</i>	蛇	mukɕej	mukɯai	mogəi	moyəi
110	<i>murui</i>	曲がった	morla	mɔrla~marlɔ-	---	uai
111	<i>nabči(n)</i>	葉	ladʒo	lafdʒɔ	labtɕyŋ	latʃɯn
112	<i>nam</i>	低い	boɕuni	bəɕəni	bɔɕni~bɔɕdə	boɕoni
113	<i>nara(n)</i>	太陽	naro	narɔ	naraŋ	naran
114	<i>narin</i>	細い、狭い	naro	narɔ	naruŋ	narun
115	<i>nasu(n)</i>	年、年齢	nasuŋ	nasun	nasə	nasun
116	<i>nidü(n)</i>	目	nudu	nədu	nəduŋ	nudun
117	<i>nilbusu(n)</i>	涙	nusuŋ	nɯrsɯn	namsuŋ	nubusun
118	<i>nimgen</i>	薄い	niŋgo	niŋgɔ	niŋgaŋ	ninkien

No.	文語形	意味	康家語	斯欽朝克因 (1999)	保安語	東郷語
119	<i>niruyu(n)</i>	背中	noro	nuru	ŋgsəχ	nurun
120	<i>niɣur</i>	顔	nor	nur~nər	nur	nu
121	<i>noqai</i>	犬	nuɕaj	nuɕuai	nogoi	noɣəi
122	<i>nousu(n)</i>	動物の毛 (羊毛)	xonisun	nuɕusun~nuŋɕusun	nogosun	noɣosun
123	<i>öcügedür</i>	昨日	ɟigute	ɟigude~ɟgude	gudər	futɕuyudu
124	<i>ögekü(n)</i>	脂、脂肪	gun	gun	gum	fugun
125	<i>ol-</i>	見つける、 見出す	uli-wa (現在・未来形)	uli	ol-	olu-
126	<i>olan</i>	多い	ulu	ulu	olon	olon
127	<i>on</i>	年	hoŋ	hən~huŋ	hoŋ	xon
128	<i>öndege(n)</i>	卵	ŋdeki	ndeɣe~əndeɣe~amd eɣe	əndəgi	əndəɣəi
129	<i>öndür</i>	高い	uŋdur	əndər	undər	undu
130	<i>oqur</i>	短い	xor	xər~χuar	gor	oqo
131	<i>oru-</i>	入る	uru	uru-	orə-	oro-
132	<i>orun</i>	所、場所	uro	uru	sateiə	oron
133	<i>oyira</i>	近い、近く	ɟada	ɟada	teiatəŋ	uira
134	<i>oɣtul-</i>	切る	ɕade (命令形)	cade~gadi-	gadə-	otolu-
135	<i>qabar</i>	鼻	xwar	χuar	χor	qawa
136	<i>qabud-</i>	脹れる	xorɟo (過去形)	xər-	χitə-	kaitu-
137	<i>qola</i>	遠い、遠く	gulu	gulu	colo	colo
138	<i>qoni(n)</i>	羊	xoni	χoni~χuni	gonə	goni
139	<i>qoruqai</i>	虫	ɕurɕej	ɕurɕei~ɕurɕai	gorɕəi	ɕuɣəi
140	<i>qoɣulai</i>	喉	xarala	guli	nətəχ	coləi
141	<i>qubčasu(n)</i>	着物、衣服	musku	məsgu	musuku	---
142	<i>qulayayila-</i>	盗む	ɕulɕej-wa (現在・未来形)	ɕulɕi-	galəɣə-	cula-
143	<i>qura</i>	雨	gura	gura	gura	gura
144	<i>qurdun</i>	速い	guto	gurdun	gurdun	gudzin
145	<i>quriya-</i>	集める [人、 物などを]	guru-na (現在・未来形)	guru-	gəra-	gura-

No.	文語形	意味	康家語	斯欽朝克因 (1999)	保安語	東郷語
146	<i>quruγu</i>	指	xar guru	guru	gur	gurun
147	<i>sara(n)</i>	月	sara	sara~ts ara	sarə	sara
148	<i>sayu-</i>	坐る、腰掛ける	so (命令形)	su-	səu-	sao-
149	<i>sidü(n)</i>	齒	ʃtuŋ	ʃidəŋ~ʃdəŋ	dun, ʃdun	ʃudun
150	<i>sirbüsü(n)</i>	筋、腱	sudasun	sdasun ~ suudasun	ndz̄isiga	sudasun
151	<i>sirui</i>	土	turu	turu~turku	eirou	tura
152	<i>solungya</i>	虹	go	ɔ	gaŋ	lun sula-
153	<i>soγtuγu</i>	酔う (酔った)	sugta-dza (過去形)	suqta~sugta-	soγtədz̄igu	sudosan
154	<i>süke</i>	斧	sugo	sugʉ	sige, ge	sugjə
155	<i>surγa-</i>	教える	surga (命令形)	surɣa-	surəɔ-	suruγa-
156	<i>ta</i>	あなた達	tasu	tasu	ta	ta
157	<i>takiya(n)</i>	鶏	taxa	taxa~tuɣa~tɣa	təɣa, tɣa	tuɣa
158	<i>tala</i>	平野、平原	to	tə~təɣɔ	tanja	pinjən
159	<i>tere</i>	彼	uri	uru	tər	tərə
160	<i>tere</i>	彼女	uri	uru	tər	tərə
161	<i>terigün</i>	頭	toru	turu	təruŋ	teiaorun
162	<i>tosu(n)</i>	油	tosun	tusun	tosun	tosun
163	<i>toγuya</i>	鍋	tɣon	tuxun~txun	tuxun	tugon
164	<i>üde</i>	昼間 (または正午)	udu	udər	naŋteie	udu
165	<i>üdesi</i>	夕暮れ、夕方	udefi	udəfi~udefi	eilaŋ	udziəʃu
166	<i>ugiya-</i>	洗う	uɣwa (命令形)	uɣua~ɣua-	gua-	uayə-
167	<i>üker</i>	牛	gula	ger	fgor, gor	fugjə
168	<i>ula</i>	足の裏	kor	ula	kual ti	kondzandzu
169	<i>ulayan</i>	赤い	huloni	fələ	fulaŋ	xulan
170	<i>ünesü(n)</i>	灰	goto	tartʃə ~ tardzɔɔ	homsun	funiəsun
171	<i>ungsi-</i>	読む	unɣfi (命令形)	unɣfi-	muei-	onɣu-
172	<i>ünür</i>	匂い、香り	antatu	fünur	---	---

No.	文語形	意味	康家語	斯欽朝克因 (1999)	保安語	東郷語
173	<i>üürte-</i>	嗅ぐ	funis-na (現在・未来形)	fünür-~huni- ~huŋni-	hundə-	funitəiə-
174	<i>üre</i>	種子、種	furi	füre~furi	furə	furə
175	<i>urtu</i>	長い	ftu	fdu~ftu	fudə, futə	fudu
176	<i>uruŋu</i>	下に	doru	duru	əiratei	dəurayan
177	<i>usu(n)</i>	水	su	sü~sy	sū, sə	usu
178	<i>üsü(n)</i>	髪、髪の毛	suŋ	sün	suŋ	usun
179	<i>üsü(n)</i>	毛 [人間の 体毛]	xemo	sün	suŋ	usun
180	<i>üsüg</i>	字、文字	puŋju	pətŋju	puteig	urəu
181	<i>üsür-</i>	跳ねる、跳 躍する	doli (命令形)	dauli-~dəuli-	dulə-	ɬziaoli-
182	<i>utasu(n)</i>	糸	dasuŋ	ndasun~dasun	ndasuŋ	udasun
183	<i>utuŋa(n)</i>	煙	funi	füni~funi	fune	funi
184	<i>uuŋu-</i>	飲む	uŋi (命令形)	uŋi-	u-	otŋu-
185	<i>uŋuta</i>	袋	puta	puda~puta	da, fda	fuda
186	<i>yasu(n)</i>	骨	jasuŋ	jasun~jatsun	iasuŋ	iasun
187	<i>yeke</i>	大きい	gu	gu	fgo, go	fugjə
188	<i>yal</i>	火	xar	ɣar	ɣal	qan
189	<i>yaqai</i>	豚	kuŋe	seŋai~saŋai	gai	quŋcəi
190	<i>yar</i>	手	xar	ɣar	ɣar	qa
191	<i>ɣulir</i>	粉	guru	guru	gulər	curun

謝辞

調査に協力していただいた康家語話者の皆様および青海民族大学の周楊措さんに深く感謝申し上げます。

参考文献

- 布和・劉照雄編著 (1982) 『保安語簡志』北京：民族出版社。
 布和等編 (1983) 『東郷語詞彙』呼和浩特：内蒙古人民出版社。
 陳乃雄等編 (1985) 『保安語詞彙』呼和浩特：内蒙古人民出版社。
 —— (1994) 「保安語及其方言土語」『内蒙古社会科学』1995年第1期: 93-96。
 韓建業 (1992) 「初談康家話語音系統及詞彙的構成」『青海民族研究』1992年第1期: 52-62。
 —— (1994) 「康家回族和語法探析」『青海民族研究』1994年第3期: 46-58。

- 李克郁 (1993) 「蒙古語族康楊回族語語音特点」『青海民族研究』1993 年第 2 期: 31-37.
- 李曉慧 (2019) 「康家語使用現狀調查報告」『蘭州教育學院學報』2019 年第 3 期: 80-82.
- 劉照雄編著 (1981) 『東鄉語簡志』北京: 民族出版社.
- 斯欽朝克圖 (1999) 『康家語研究』上海: 上海遠東出版社.
- 孫竹主編 (1990) 『蒙古語族語言詞典』西寧: 青海人民出版社.
- 吳承義 (1990) 「康楊回族鄉沙里木回族講土語及其由來的調查報告」『青海民族研究』1990 年第 4 期: 50-54.
- 中華人民共和國民政部編 (2016) 『中國民政統計年鑑 2016 年版』北京: 中華人民共和國民政部.
- Ko, Seongyeon (2012) *Tongue root harmony and vowel contrast in northeast Asian languages*. Ph.D dissertation, Cornell University.
- Nugteren, Hans (2011) *Mongolic Phonology and the Qinghai-Gansu Languages*. Ph.D dissertation, Leiden University.
- Svantesson, Jan-Olof, Anna Tsendina, Anastasia M. Karlsson and Vivian Franzén (2005) *The Phonology of Mongolian*. Oxford: Oxford University Press.
- 栗林均 (1989a) 「モンゴル系諸言語対照基本語彙: 中国少数民族語言簡志叢書の資料による」『言語文化接触に関する研究』(1)東京: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. 153-383.
- (1989b) 「モンゴル語族と近隣の諸言語の言語接触」北方言語・文化研究会編『民族接触: 北の視点から』東京: 六興出版. 273-289.
- (1989c) 「シロンゴル・モンゴル語」亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典 第 2 卷 世界言語編 中』東京: 三省堂. 279-280.
- 周楊措 (2019) 「中国青海省黄南藏族自治州尖扎県における多民族村の言語使用状況に関する研究」広島大学博士論文.
- 春田勇輝 (2023) 「康家語 (カンジャ語) の母音体系とその通時的変化」東京外国語大学修士論文.
- 山越康裕 (2017-2020) 「モンゴル諸語対照基本語彙」<https://mongolicbv.aa-ken.jp/index.htm>.

A Basic Vocabulary of Kangjia (1)

Yuki HARUTA

(Tokyo University of Foreign Studies)

Keywords: Kangjia, Mongolic languages, basic vocabulary

A basic vocabulary of Kangjia, with a brief phonological description to compare it with other Shirongol Mongolic languages, is provided in this paper. Kangjia is a Mongolic language spoken by the Hui people in Kangyang Township, Qinghai Province, China. The number of Kangjia speakers is estimated to be in the hundreds. Kangjia is one of the least-spoken Mongolic languages, and is in danger of becoming extinct. Furthermore, Kangjia has received little attention since the publication of its only grammar in the 1990s, making it one of the less-researched Mongolic languages. The basic vocabulary of Kangjia presented here is based on a survey conducted by the author. The survey was conducted online from January to August 2022, and basic vocabulary was collected from several Kangjia speakers. The basic vocabulary is augmented by a comparative list of the two neighboring Mongolic languages; Bonan and Dongxiang (Santa).

(はるた・ゆうき haruta.yuki97@gmail.com)